



# さなぎ達通信

VOL. 25 2011年1月発行

特定非営利活動法人さなぎ達 〒231-0026 横浜市中区寿町3-9-8 電話045-228-1055

## 現場としての寿



さなぎ達理事長 山中 修 (ポーラのクリニック院長)

若者は寿で成長する。

寿にかかわる人たちは、みな、寿を「おもしろい町」という。私も10年前にそう思った。「おもしろい」って言ったって、東京ディズニーランドとはかなり違う。何がおもしろいんだろう？ ひとそれぞれに答えが違う。これがおもしろい。

医者之眼には高齢者の病気と死が、役人之眼には福祉のありかたが、若いケースワーカーには修業の場が、宗教家には愛の分配が、介護会社や簡易宿泊所のオーナーにはビジネスチャンスが、政治家には票が、建築家には街創りの可能性が、文筆家には人生のストーリーが、絵描きには表現のエネルギーが、音楽家には癒しの対象として、メディアには10年先の日本が、この街に見えるからだ。だから、「さなぎ達」への見学者がひきも切らない。

今年の春から慶応大学の武藤、横山両教授のご尽力で、慶応の学生達のフィールド学習としてKMVP（注：寿みまもりボランティアプログラム）を通じた寿へのかかわりが始まり、半年経過してなかなか独特の味がでてきたようである。1回コックリの見学ではない継続的な活動であるところがミソ。もともとのKMVPの発想は、「自然死と若者のかかわり」であった。つまり、無縁社会である現代の問題点の根底は「死を陰性化してしまったこと」にあり、その処方せんとして、死を見る文化をとりもどすことの提言であった。現在活躍中の社員川崎はボランティア時代から、KMVP療法のモルモットとなり、10人前後の死に直にかかわった。この間泣いたりトラウマになったりもしたが、結果として、彼女はたいていのことにはたじろがない肝っ玉の持ち主となり、弱者のホントの気持ちを

引き出せる上手な聞き手となった。このコミュニケーション能力は、学生時代の点数では評価出来ない反面、実は社会に最も必要であり、特に今の日本社会に欠けている要素のように思える。

慶応のプロジェクトは、「人とのかかわりに生まれる物語」がテーマ。昨日、プロジェクト活動中の女子学生二人からそれぞれ面談をした。「なんで人はもっと優しくなることができないんだろう？ このような環境に弱者として生きてる人が現実にいることに目を背けてどうしてみんな平気でいられるの？」と考えた子。「あいりん地区にも行ったんですけど、寿は恵まれてます。甘やかされすぎ」と感じた子。二人とも、訪問対象者の寿おじさんは違うものの半年間ほぼ同様の活動をしてきたにもかかわらず、このように異なった意見となったことは、興味深い。訪問頻度の関係から、学生達には残念ながら、死を見る文化を取り戻す活動にはかかわらせていない。「寿で生きる」おじさんの伴走を半年間してきた慶応大学寿みまもりプログラムの結果生まれた相異の一例である。

路上生活という社会の居場所に生きる人、家族のいないさびしい社会に生きる人、仕事がない・できない環境に生きる不安な人、独りで死を受け入れざるをえない選択のない人。この人達の声を聞き、表情を観察し、何かをする、しなくてもいいから「良し」と認めあげる、そういう若者が社会に巣立って行って欲しい。リーダーに育って行って欲しい。大きな流れで社会を見つめていくには、寿は興味深い。10年先の日本を変えられる教育の現場としても、やはり、寿はおもしろい町である。

# ゲストブック

さなぎ達に中学生からの手紙が届きました。原文のまま掲載いたします。

さなぎ達さま

先日は寄付のお礼をわざわざありがとうございます。ご丁寧な文章で恐縮しております。

実は私は、小学校6年生の自由研究で寿町について調べ、実際に母と兄とで訪れました。仕事もなく住居にも困っている方々が沢山いることに驚きました。

「はまかぜ」という施設の見学もしました。

そして、ある喫茶店行きました。

そこで出会った60代ほどの男性と話が弾みました。その方は毎月生活保護と傷害年金（障害年金？＝編集部）を貰い、そのお金で生活をしていました。しかし、その中から毎月1万円をユニセフに寄付をしていることを聞きました。

それから、私は無駄遣いをするのを止めました。

そして僅かですが、買い物の際のお釣りを貯金箱に貯めていました。

その矢先、中学校に入り寿町の話を再び聞きました。この瞬間、何か忘れかけていたものが、沸々と頭をよぎりました。そこで私は、2つの貯金箱を母に持って行くようお願いし、今回寄付をしました。

寿町の皆さんはいかがお過ごしですか。

今年は夏も暑く、大変だったことと思います。

12月に入った今は暖かいですが、すぐ寒さは迫ってきます。どうか風邪やインフルエンザにお気をつけ下さい。

今年の聖なる夜を皆さんで心を安らかに温かくお過ごし下さいませ。

大磯からお祈り申し上げます。

2010. 12. 1

## 報告（1）

### かどべや朝市「おとなり市」

11月から毎週第2、第3土曜日、カドベヤで朝市「おとなり市」が始まりました。

「かどべや」に集まっている学生たちの提案が基になって実現したものです。横浜で育った地元の野菜を販売しており、取れたてなどで新鮮さはどこにも負けません。少しでも安く提供するために、形の悪いいわゆるB級品も仕入れていますが、味や質は満足いただけると思います。

「おとなり市」という名前には、近所の人に遊びにいくような感覚で気軽に訪れて欲しいという思いが込められています。当初予想したよりも多くのお客さんが来てくださっています。

おとなり市：毎月第2、第3土曜日 午前11時～午後3時（売り切れ次第終了）

場所：カドベヤ（中区石川町5-209-3）



## 報告（2）

### はらぺこ基金

今年10月より開設しました「はらぺこ基金」へのご寄付の総額は、現在301,400円です。これは食数として1,004食相当になります。

皆様からのご支援に心より御礼申し上げます。

この「はらぺこ基金」と「仕出し弁当事業」で頂いたご寄付を併せて、毎月100食程度を当法人で行って

いる木曜パトロール（夜回り）の際に、路上で生活されている方へ「食券」として配布させて頂いています。また、食事提供と同様に、さなぎの家との連携で生活相談や衣類・日用品の配布などを行い、より効果的なサポートを実践しています。

一人でも多くの方に温かい食事をして頂くこと、そ

して、それをきっかけに人間関係から離れてしまった方との新たな繋がりや再構築の為、スタッフ一同、より一層の努力をしております。

これからも皆様のご支援を賜りますよう宜しくお願い致します。

（さなぎ達理事・さなぎの食堂シェフ 土谷 伊麻里）

## 報告（3）

### 「さなぎの家」改装工事

皆様方のお力添えのおかげで、12月23日からさなぎの家の改装工事を始めることができました。トイレ・入口のバリアフリー化、カウンターの撤去によるスペースの拡充を行います。

完成後の様子は、この通信でご報告させていただきます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



## データブック

◎数字で見るさなぎ達の活動（2010年9月～12月）

	9月	10月	11月
さなぎの家 来場者(人)	3166	4098	3988
木曜パトロール 野宿者平均数(人)	145	129	125
寿 JUMP 参加者(人)	3	3	3
KMVP 利用者(人)	6	8	9
KMVP 活動件数(件)	49	42	49
さなぎの食堂 仕出し弁当(食)	172	260	211

（注1）KMVP：寿みまもりボランティアプログラム

### 【さなぎの家 ご寄贈品報告 2009年11月～2010年10月】

月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
寄付物品数	3295	4218	1929	1183	3462	1899	1814	1475	1604	1163	1544	3634	27220
提供物品数	2436	2244	2225	1741	2027	2246	2759	3349	3125	2636	2456	3076	30320

（注2）提供数が寄付数を上回っているのは、洗剤や石鹼等を1回分の使い切りに分けて提供している為です。

皆様方のご協力でもっと多くの衣類・雑貨のご寄贈品が集まっております。寄贈品の仕分け作業は、寿地区や路上で生活している方たちがボランティアで手伝ってくれます。寄贈品は、防寒や清潔な身だしなみだけではなく、「さなぎの家」を訪れる方々の「仕事づくり」にも貢献しています。御礼申し上げますとともに、今後とも応援よろしくお願い致します。

**会員更新のお知らせ** いつもNPO法人さなぎ達をご支援いただき、誠にありがとうございます。今号では郵便振替口座の振込用紙を同封させていただきます。正会員・サポーター会員の方の更新時（1年間有効）、カンパ等のお振込、また皆様のお知り合いの方で活動をご理解いただき新規会員になりたいという方の会費の振込等にご利用いただきますようお願い申し上げます。

# ありがとうございました

▽9月11日から12月10日の間にご寄附・ご寄贈いただいた皆さま。ボランティアとして関わっていただいている皆様。ありがとうございました！

\*HP では個人情報のため、ご寄付、御寄贈品、ボランティアで関わっていただいた方の氏名の掲載は省略させていただきます。\*



**編集後記** 前号に続き今号も発行が大幅にずれ込んでしまいました。12月発行予定が越年してしまいました。昨年のNHK番組が火付け役となった「無縁社会」という言葉も、どうやら年をまたぎ、ますます広まっていきそうです。山中理事長は、早い時期からこの言葉が一人歩きすることに警鐘を鳴らしていました。今号の巻頭言を読めば、理事長の考えがある程度お分かりになると思います。先生の文中にある「死の陰性化」という言葉には深く考えさせられました。今年はうさぎ年。ピョ〜ンと軽く跳ねましょう。(NP)

さなぎ達への「ご寄付」は下記の銀行もしくは郵便振替口座にお願い致します！！

\*郵便振替 00260-8-65127 口座名「特定非営利活動法人 さなぎ達」

\*三井住友銀行 横浜支店 普通6967937 口座名「特定非営利活動法人 さなぎ達」

さなぎの食堂「はらぺこ基金」は下記の郵便振替口座にお願い致します！！

\*郵便振替 00200-7-53701 口座名「さなぎの食堂」(1口1,500円)

**【お問い合わせ】**

電話番号(事務局) : 045-228-1055 (9:00 から 18:00、土日祝祭日はお休み)

e-mail : sanagitachi@nifty.com

HP : <http://www.sanagitachi.com/>